

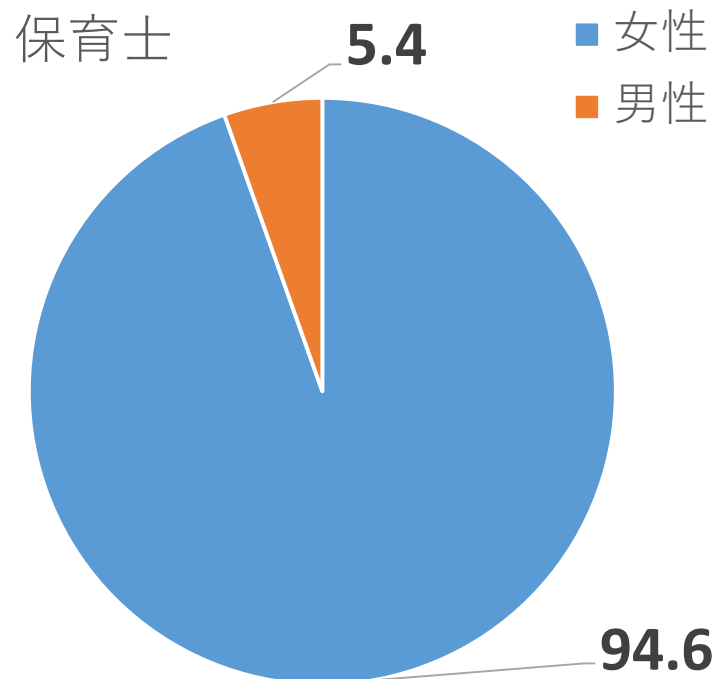
保育士健康と労働環境

ー全国保育・幼児教育施設調査からー

淀川裕美・高橋翠

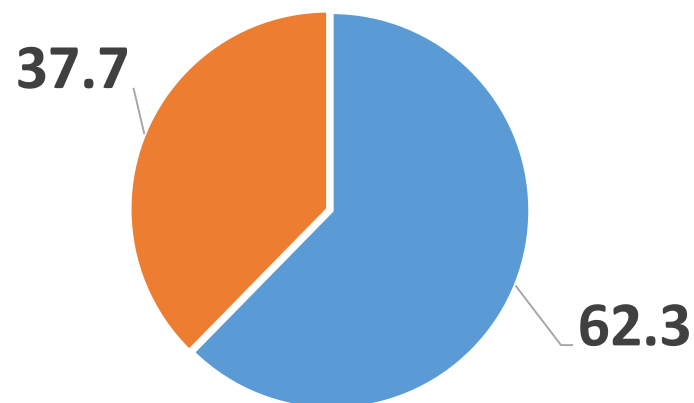
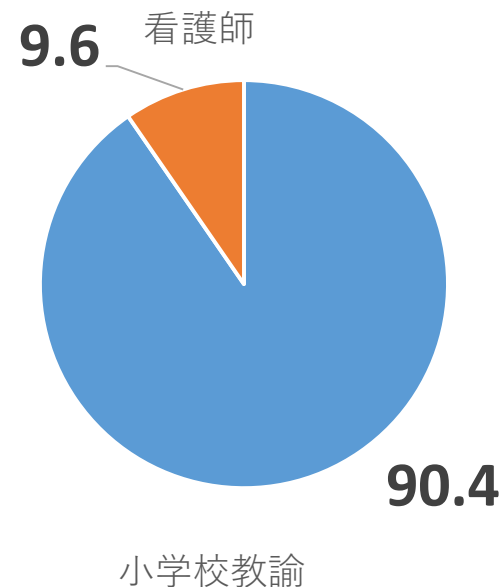
東京大学大学院教育学研究科附属
発達保育実践政策学センター（Cedep）

保育士は、女性が約95%！



保育士とは

- **女性**がきわめて多い職業
- 働く母親（**女性**）を支える職業



しかし…深刻な保育士不足

離職

保育所保育士の採用者と離職者(常勤のみ)

	勤務者	採用者数	採用率	退職者数	離職率
全体	320,196人	48,733人	15.2%	32,823人	10.3%
うち公営	116,862人	11,904人	10.2%	8,330人	7.1%
うち私営	203,334人	36,829人	18.1%	24,493人	12.0%

(出典) 平成25年社会福祉施設等調査(厚生労働省統計情報部)

需給バランス

新規求人倍率

(新規求人数/新規求職申込件数)

全国平均 1.70

東京都
滋賀県

4.63
3.36

神奈川県
鳥取県

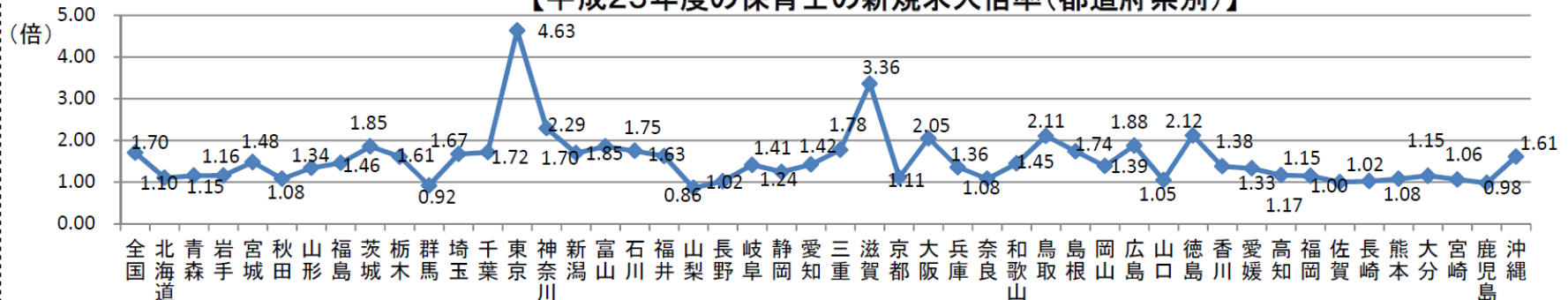
2.29
2.11

徳島県
大阪府

2.12
2.05

都道府県別県況

【平成25年度の保育士の新規求人倍率(都道府県別)】

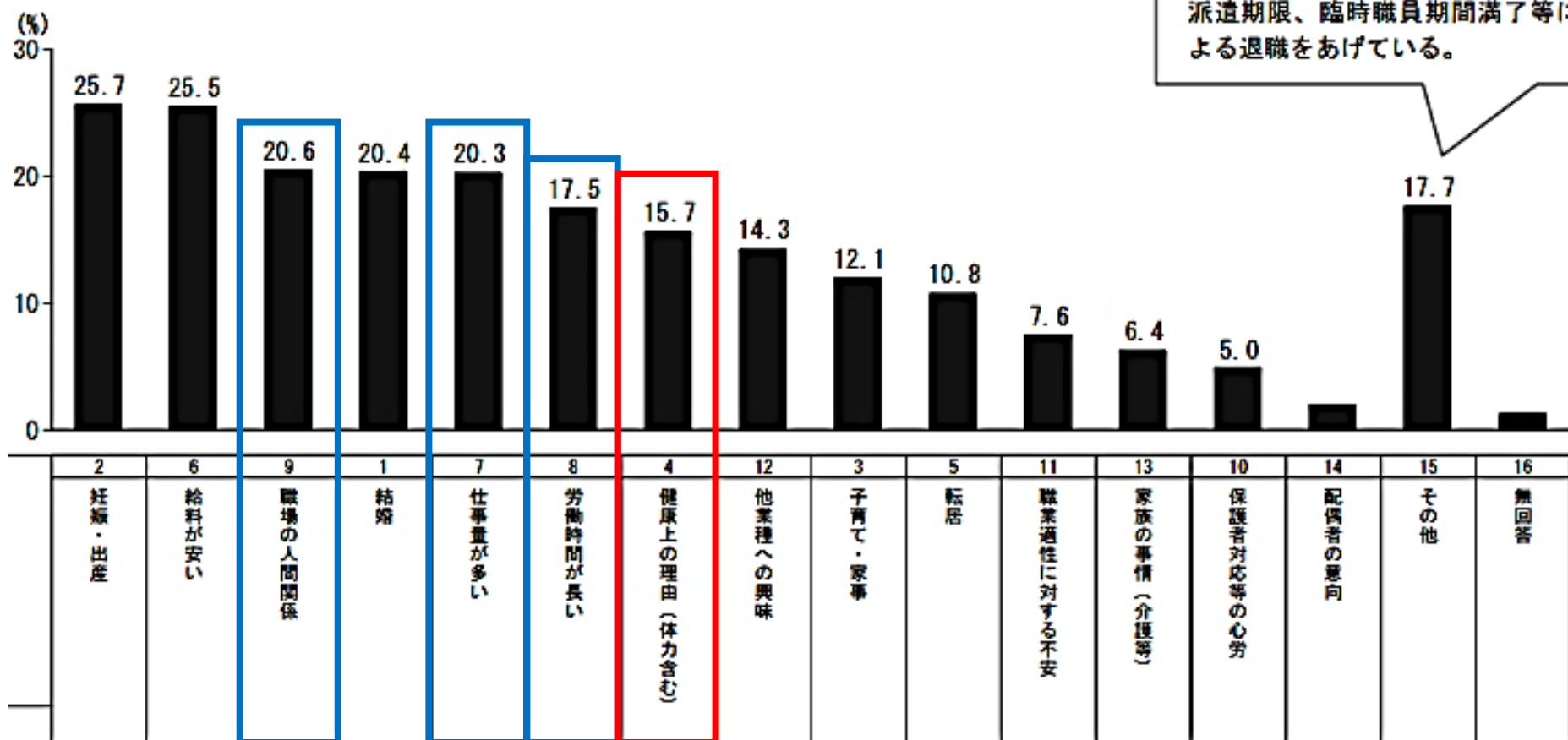


【出典】厚生労働省「職業安定業務統計」

退職

問 1 6 - 2 保育士退職理由【過去保育士就業経験有】(複数回答)

■ TOTAL n=2,871



【保育士としての就業を希望しない理由】(複数回答)

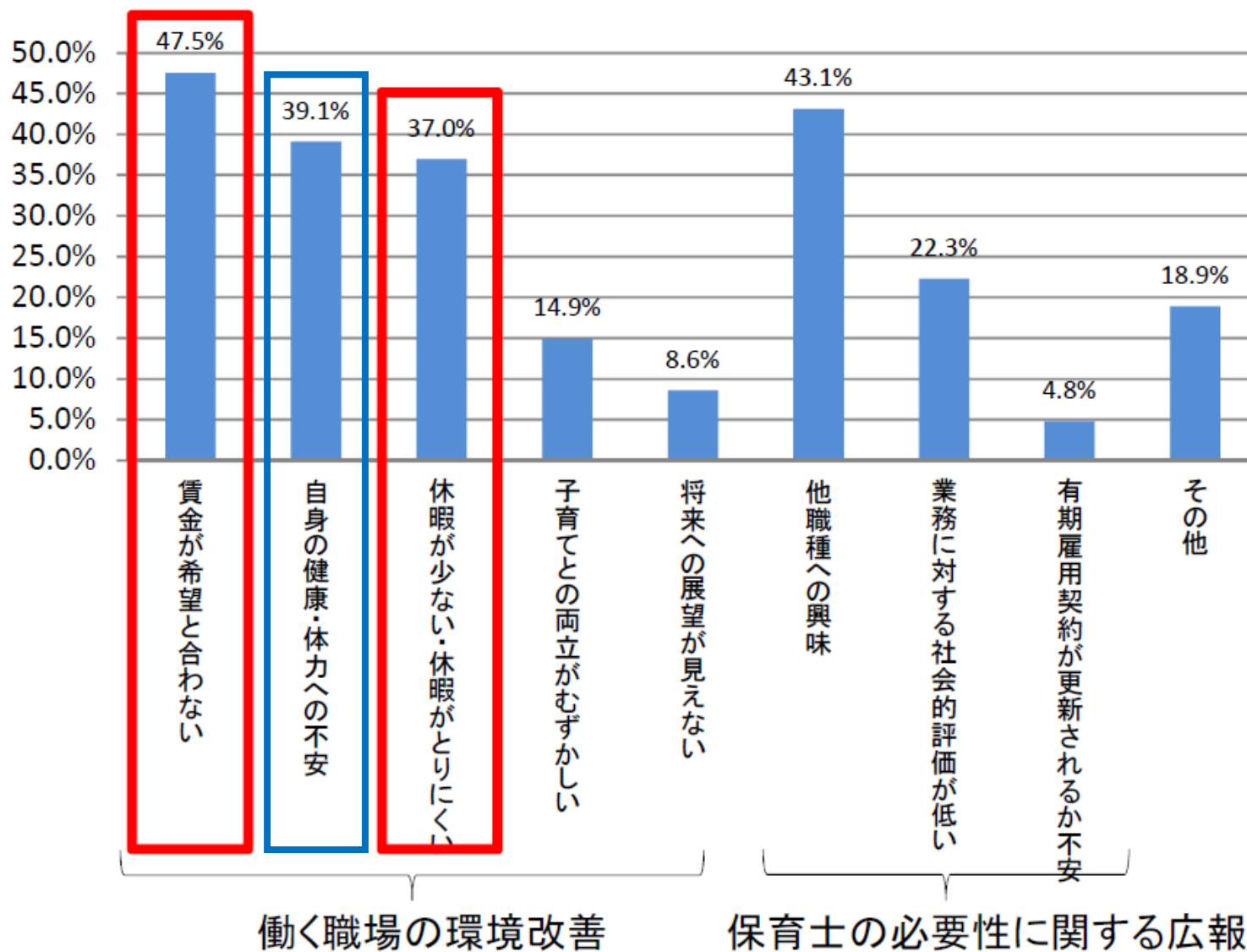
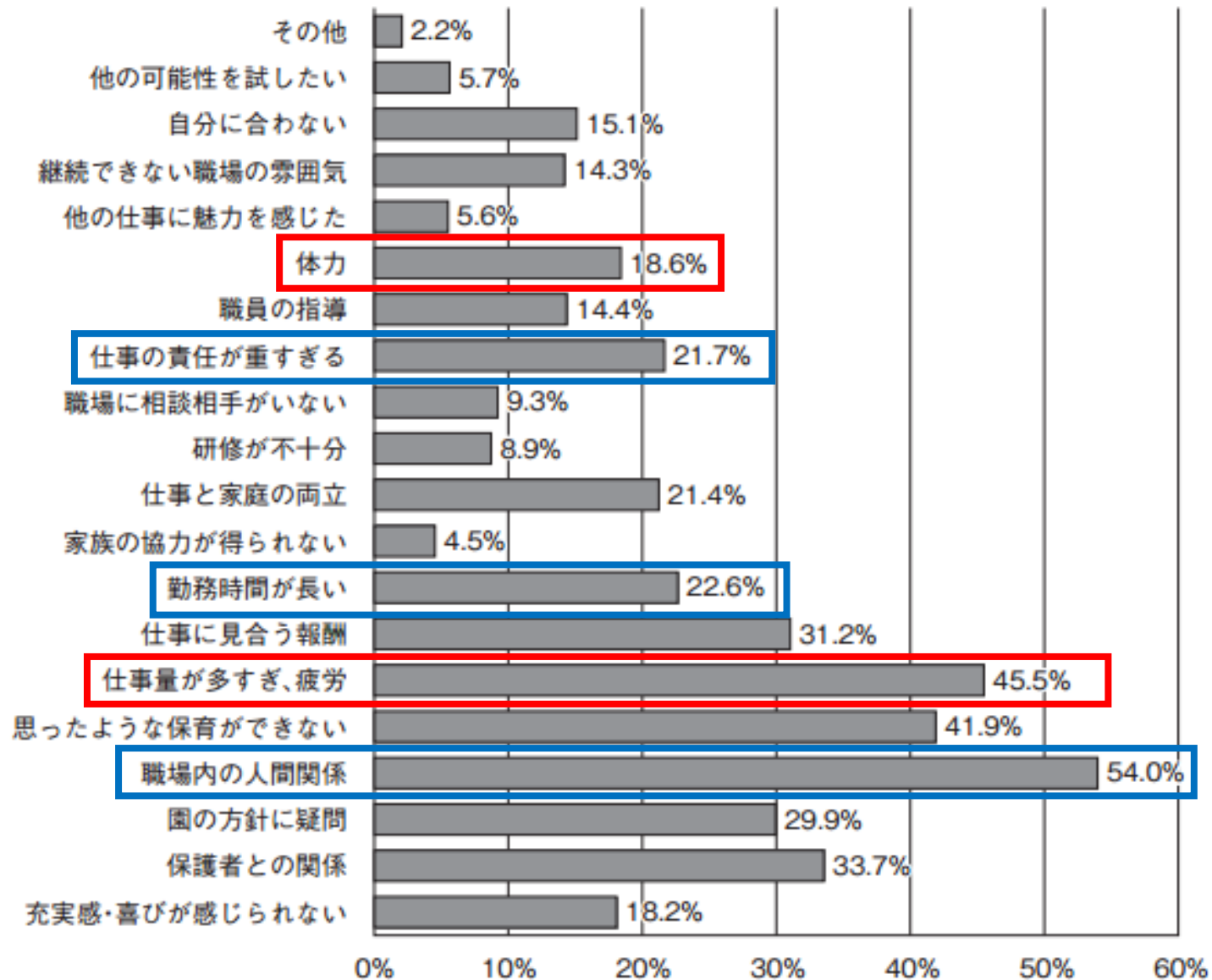


図20-1 仕事上の悩み



保育士のバーンアウト

- **対人援助職のバーンアウト（燃え尽き症候群）**

→「理想に燃え使命感にあふれた人を襲う病」

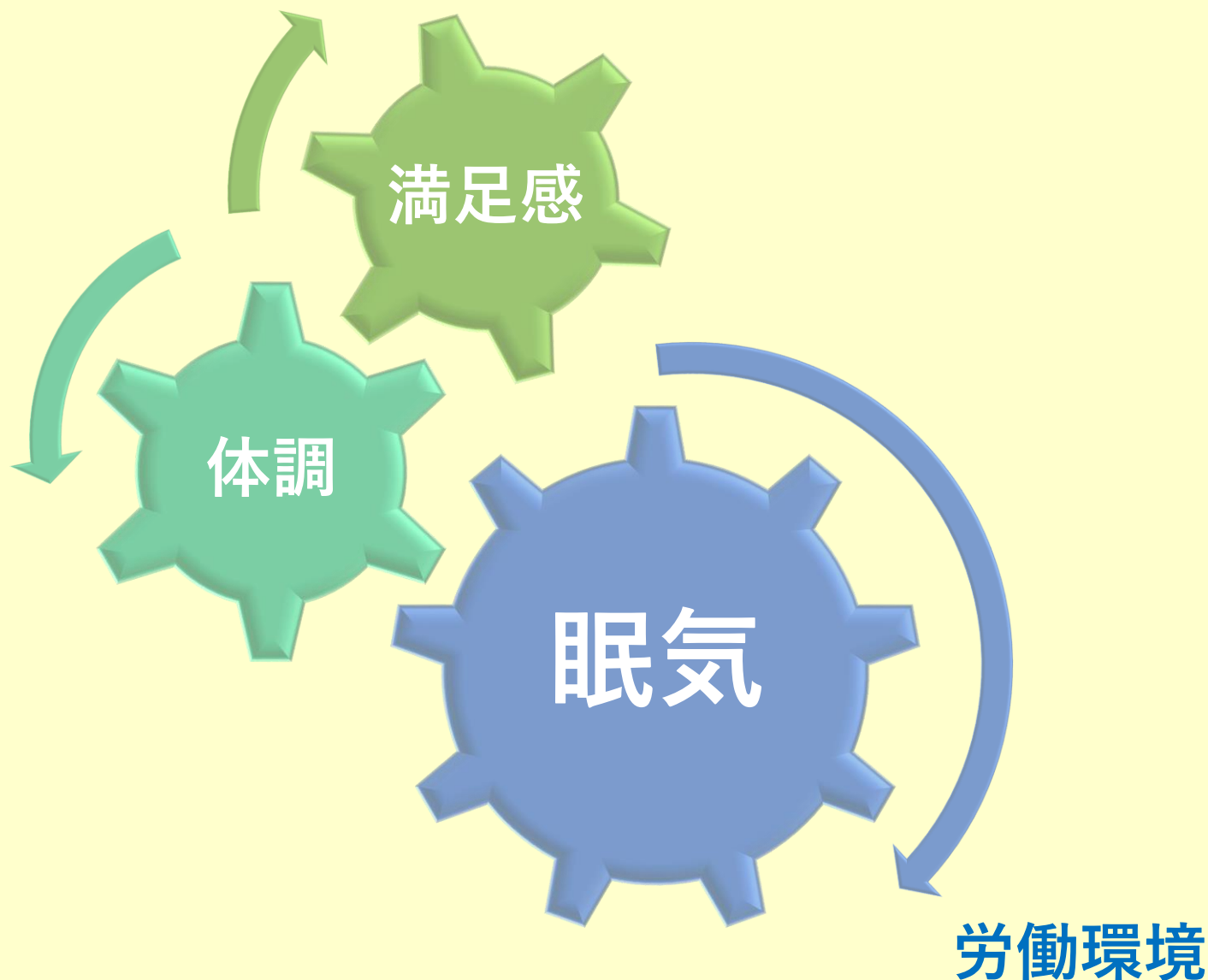
（プライズ&マーフィ，1984）

- 対人援助職の成果は見えにくいものであるため、達成感が得られにくい。そのような状況で、ひたむきで“他人を気遣う心”“利他的な奉仕的精神”をもった人が、援助対象からの絶え間ない要求と慢性的な人手不足の中で極度の消耗を経て、バーンアウトに陥っていく（久保, 2004/2008）

- **ワークモチベーションは高いが、メンタルヘルス（バーンアウト、抑うつ、休息の希求度）は良好とはいえない（磯野他, 2008）**

- **労働負荷は保育士のバーンアウト傾向を高め（e.g. 森田・植村, 2011; 宮下, 2010；小林ほか, 2006）、バーンアウトは離職リスクを高める（e.g. Ahola et al., 2009）**

保育士の睡眠（眠気）に注目



2015年Cedep大規模保育・幼児教育施設調査

- 2015年12月～2016年3月に実施
- 各施設の園長、主任、担任（1・3・5歳児担任）に回答を求めた

幼稚園

認定
こども園

認可
保育所

小規模
保育所
(地域型
保育)

認可外
保育施設

・送付：
3402園
・回収率：
約40%

・送付：
2565園
・回収率：
約45%

・送付：
4937園
・回収率：
約50%

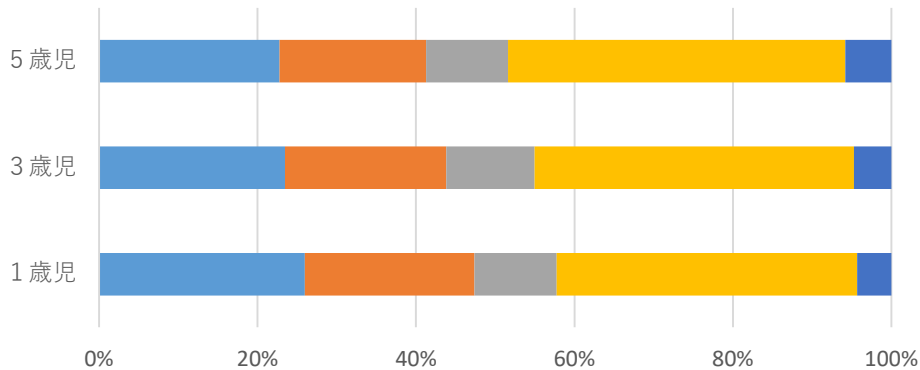
・送付：
1654園
・回収率：
約35%

・送付：
7821園
・回収率：
約15%

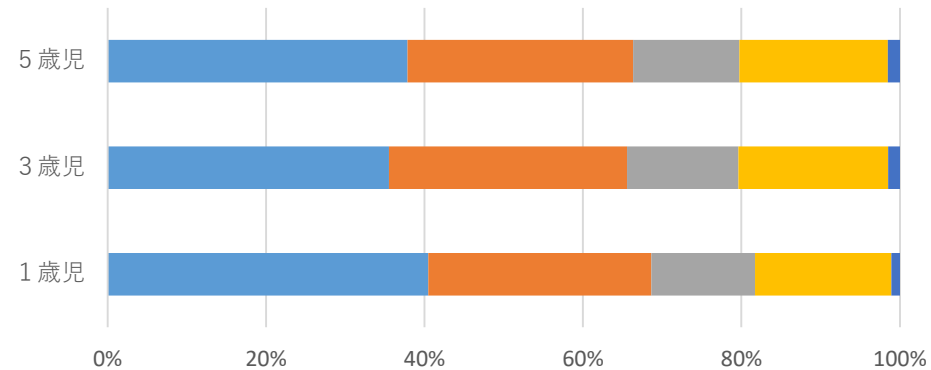
7100超施設、**30,700名**が回答

担任保育士の「最近一ヶ月の体調」 (Cedep, 2015)

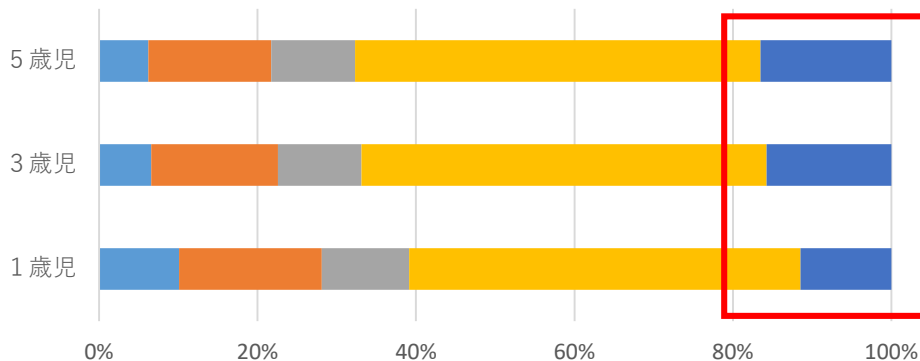
頭が痛い



おなかが痛い



眠気を感じる



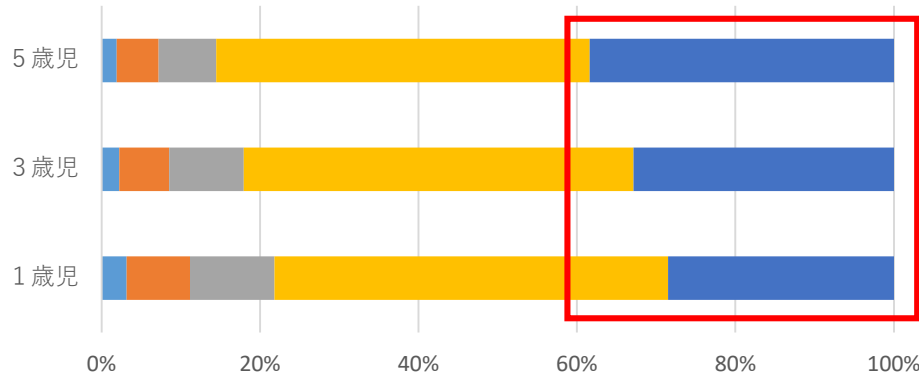
**10%以上の担任保育士が
「いつも」眠気を感じている**

(3歳児・5歳児は15%以上)

- まったくあてはまらない
- あまりあてはまらない
- どちらともいえない
- たまにあてはまる
- いつもあてはまる

担任保育士の「最近一ヶ月の体調」 (Cedep, 2015)

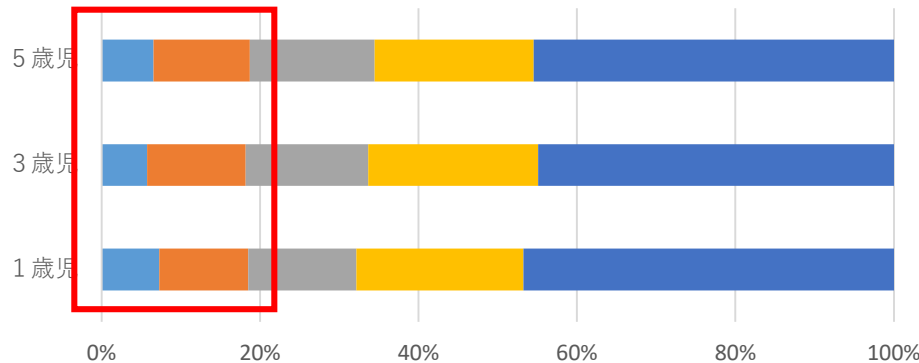
疲れを感じる



30%以上の担任保育士が「いつも」疲れを感じている

(5 歳児は40%近く)

月経は定期的である (20~40代)

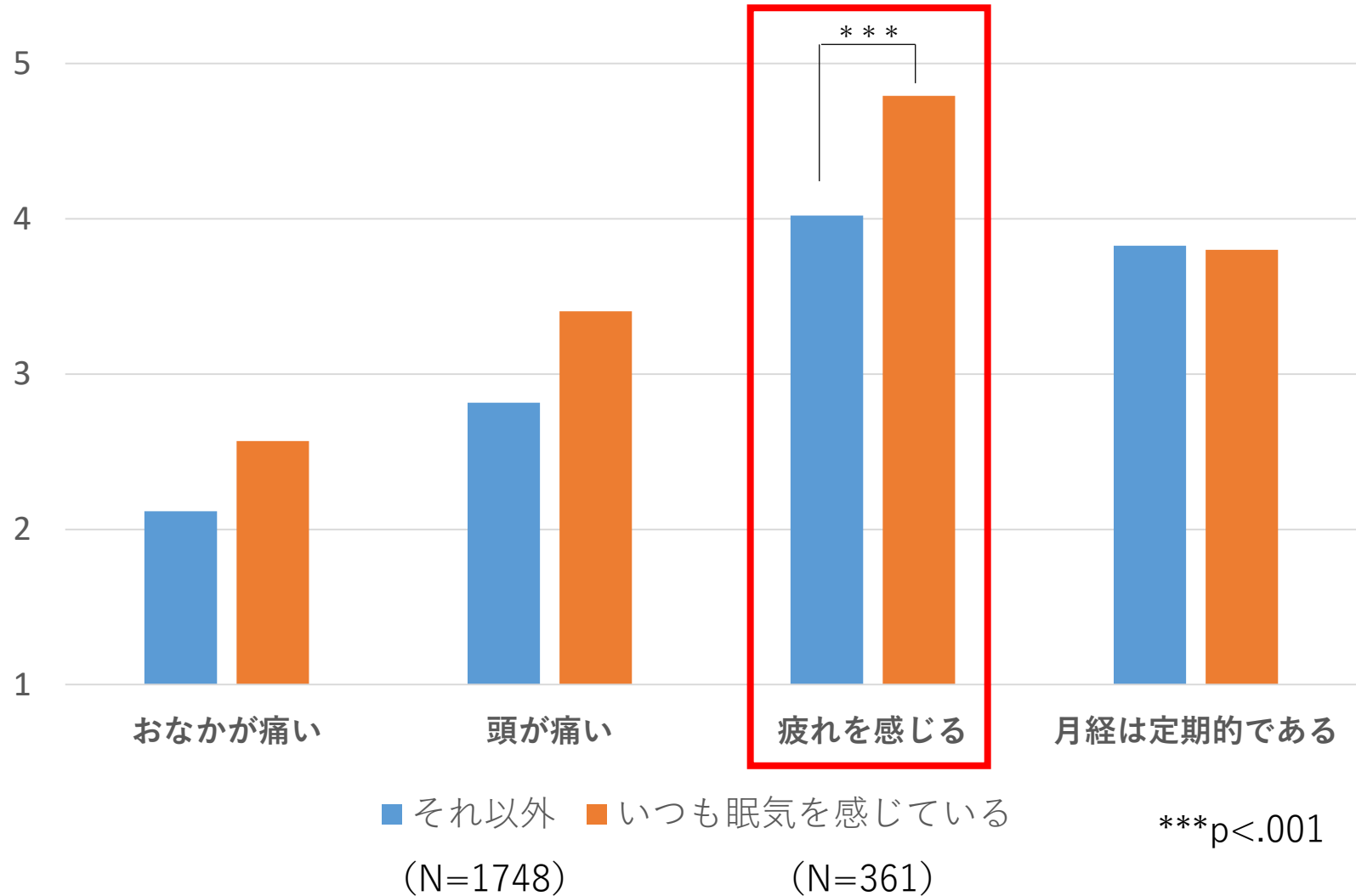


20%近くの担任保育士が月経が定期的でないと感じている

- まったくあてはまらない
- あまりあてはまらない
- どちらともいえない
- たまにあてはまる
- いつもあてはまる

特に、「いつも」眠気を感じている担任保育士は…

最近一ヶ月の体調（5歳児担任）



眠気の規定要因（負担感）

従属変数	独立変数	β	t値
眠気を感じる	事務的作業の多さ	.124	4.081***
	年齢	-.089	-3.663***
	仕事の責任の重さ	.081	2.975**
	保育士の不足	.067	2.426*
	休憩時間を十分に取れないこと	.078	2.379*

* $p < .05$ ** $p < .01$ *** $p < .001$

◆他の投入変数（負担感）

公立私立の別
 同僚との関係
 一人ひとりの子どもとのかかわりを
 十分に持てないこと
 気になる子どもへの対応
 自分と保護者の子ども理解の違い
 労働時間の長さ
 日常的な休暇が取りにくいこと
 特別休暇を取りにくいこと
 給与が十分でないこと…

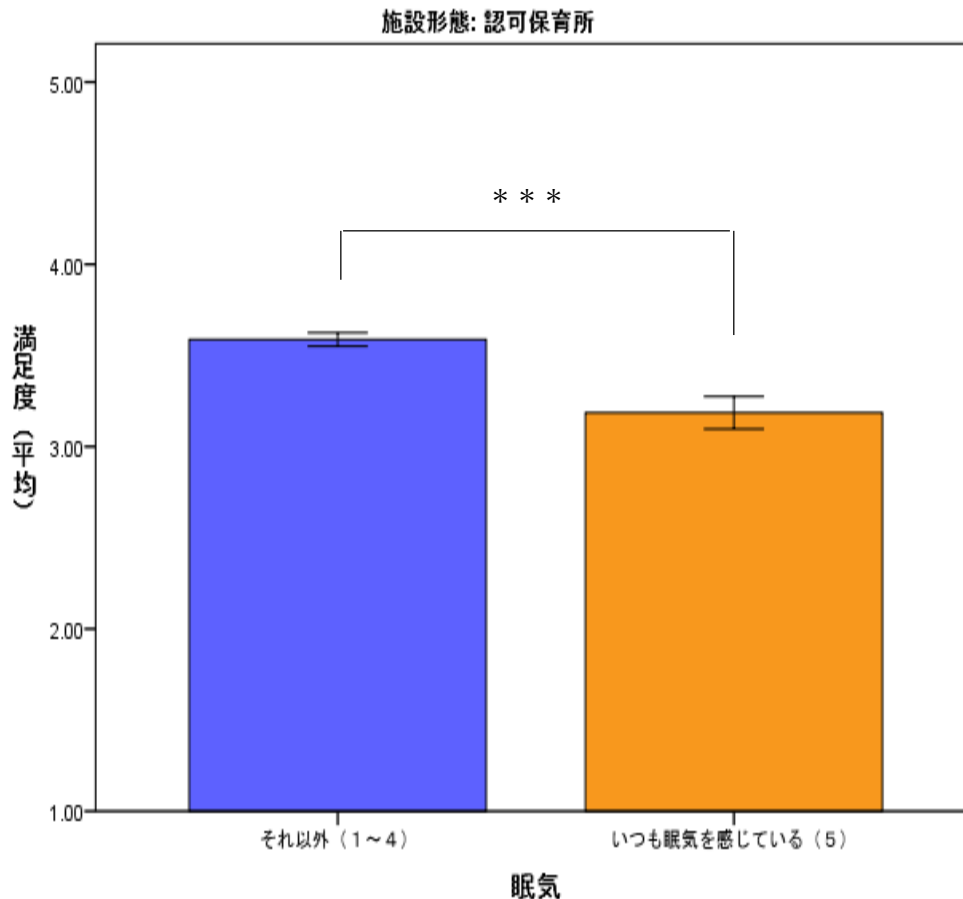
眠気と職務満足感（5歳児担任）

「全体的に見て、自分の職場には満足している」

「全体的に見て、自分の仕事には満足している」

「できるだけ長く今の職場で働いていたい」

3項目の合計点



いつも眠気を感じている群
は、それ以外の群と比べて
職務満足感が有意に**低い**

保育士の健康増進、睡眠改善へ

いつも眠気を感じている保育士の

- サービス残業、持ち帰り仕事の量、時間
- ヒヤリハットや事故との関連（予防、対応）
- 子どもへのかかわり（イライラ、不注意）



園や自治体でできる（すべき）こと

- 事務的作業の軽減、効率化
- 休憩時間の確保（ノンコンタクトタイム）
- 労働力の確保（保育士不足の解消）



睡眠の観点から保育の労働環境改善、質の向上を

ご清聴ありがとうございました



付記

本研究は、平成27年度東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センターの事業として、秋田喜代美、遠藤利彦、野澤祥子、（いずれも東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター）とともに実施した大規模調査の一部である。